Jao ニュース

３８３号　２０２３年１０月

発　行　じゃおクラブ
責任者　大澤　輝之
編　集　事務局
ＵＲＬ　https://jaoclub.com/

事務局だより

１．9 月 1 日現在の会員数

湘南	県央	ベイサイド	多摩・田園	計
40	38	32	29	139 名（E グループ会員：126 名）

２．運営委員会より（詳しくは運営委員会議事録をご覧ください。）

1）　議決権行使と会費納入がうまくいかない会員のサポート（竹内委員）
第 32 回総会において、会費振込がうまくいかない、メールによる開催告知や参加申し込みが充分に伝わっていない、議決権行使への対応が難しいなどの事例がありました。
具体案について協議の結果、次回総会時は、一部の会員には議案書や議決権行使ハガキ、郵便振替用紙などを郵送します。なお、じゃおニュースや予定表は従来通りです。

2）　年度総会の改善（竹内委員）
7 月 23 日の運営委員会にて、湘南より地域じゃおの総会スケジュールを考慮して年度総会を開催する提案がありました。湘南の提案を尊重し、第 33 回通常総会は 2024 年 5 月 26 日に対面開催する方向とし「①議案書と付属資料の簡略化」「②総会スケジュールの見直し」「③総会を交流の場として活用」の 3 つの方向で進めていきます。

3）　じゃおニュースの記事について（じゃおニュース関係者会議の報告）（竹内委員）
8 月 31 日に、じゃおニュース関係者会議を行い、以下の方向で合意しました。

- 「会員だより」ですが、五十音順の個別依頼は、毎月の依頼人数を減らして今後も継続します。同時に「自由投稿」を始めます。投稿を促進するため、「じゃおニュースへの投稿募集記事の掲載」「記事執筆のヒントとして投稿テーマを告知する」などを行います。
- 「活動報告」は、地域じゃおを超えて活動を告知する手段でもあるので、記事の数が増えるように努力します。ただし、強制はしません。

4）　HP サークルより報告（竹内委員）
現在、ホームページ・サークルの会議へのオープン参加を募集しています。ホームページの制作や運営に関心をお持ちの方がありましたら、お知らせください。
次回は 10 月 22 日（日）15 時半～17 時にオンライン開催します。参加ご希望の方は、多摩・田園の竹内までメールをお願いします。

３．次回の運営委員会
日時：2023 年 11 月 26 日（日）10:00～12:00　オンライン開催
議長：高橋委員、書記：竹内委員

会員だより

ビザ取得のこと

県央　山口　安弘

最近の経験です。

急にオーストラリアに住む娘のところに行く用事が出来て、ビザを取得することになりました。

日本のパスポートは世界最強の一つで、ビザなし渡航先数が去年まで世界 1 位であり、今年になってビザが必要になる国が増えましたが、それでも現在 189 ヶ国もあって世界 3 位です。しかしオーストラリアへの渡航にはいまだにビザが必要です。

ビザは渡航先国の大使館や領事館に出向いて申請する必要があり、手続きが大変なので、以前はそれに代わる ETAS（電子渡航認証）を取得していました。ちなみに現在国内のオーストラリア大使館および領事館ではビザを取り扱っておらず、ソウルでする必要があります。ETAS はこれまで日本の代行サービス会社で簡単に取得でき、費用も 500 円程度で済んでいました。ところが、数年前から電子渡航認証を代行会社経由で取得できなくなり､オーストラリア ETA アプリから直接申請する方式に変わって、費用も 2000 円程度かかるようになりました。アプリをスマホにインストールすると、英語の説明で顔写真とパスポートの所定の部分をスマホで撮って送信する必要がありました。英語は長いことすっかりご無沙汰していたので、辞書を片手に何とか取得できましたが、特に細かく要求される顔写真の撮影には苦労しました。インターネットで調べてみると、英語圏の人でも顔写真の撮影をはじめ操作にかなり苦労しているようでした。

以前の方法では取得に 1 週間程度かかっていたものが、今回はその場で取得でき、同時にパスポートに登録されるので、オーストラリア入国時の作業が簡単になるというメリットはありますが、ソフトに入力する大変さを何とかして欲しいと思った次第です。

雑感　我が心と虹

多摩・田園　山﨑　興司

私は 1939 年 2 月 13 日　東京市瀧野川で生まれました

じゃおクラブのみな様に何かご報告お届けする順番が来たことであり殴り書きのつたない文章しか書けないのですがよろしくお願い申し上げます。

入会してからはかなりの年月が経っており、十年一日のごとくの私にはじゃおの今はいろいろな事や物が様変わりしすぎていて、実際のところはついていくのがやっとという有様です。　年齢調べがあった際の用紙のページに 2006 年入会と記載されているのを見て古参を再確認できた次第であります。

いさかわさんが会長であられた日曜日サロンで新入会者として紹介され、びくびくしていた私に　大丈夫だと心配しなさんなとの励ましにとれるお言葉をいただいたのが印象的でした

分け隔てなく一人一人に気配りのある全体の平等感は何とも気持ちの良いものでした

飲み会が多くありそれぞれ楽しいものでしたが私には失敗がよくありました
へべれけになった帰り道自宅付近でリュックからパソコンを落とし壊してしまい
仲間に修理して戴いた事もあります。

地域じゃおでは当時人数の一番多い「田園」所属でしたので多士済々の方々から
受け身ながらも様々な良い影響を受けて今日の私に生かされております
現在の「多摩田園」は定例会が町田市で行われ電車で 40 分程です

一寸余計な物と歳喰いすぎていますが諸行事に参加できるように体調に気を配り
食いつないでいく所存です　日日、感動する気持ちを　持ち続けながら

「大人の遊び場」の空にも「虹」を見てわが心は弾みます。

虹

心は弾む大空に
虹を見るとき,
子供であったころはそう
大人になった今もそう
歳は老いてもそうであれ
でなければ死を。
子供は人間の父なれば,
私の日々は自然への
畏敬の念で結ばれてあれ。

ウィリアム　ワーズワース（1770～1850）作
「英詩のこころ」（岩波ジュニア新書）岩波書店刊　福田 昇八著　より引用

「顧みれば楽しい日々だった」

湘南　山本　達也

私は 60 歳で退職したが、まず気付いたことは自宅のある地元には飲み友達は一人もいないということだった。在職中はよく飲んだが、それは殆ど会社関係だったわけである。そういう事で、私の「じゃお」加入は、家内に背中を押されての仲間造りだったのである。

そのお蔭で、一つ間違えれば、家族や社会のお荷物になりかねない「濡れ落葉」となることもなく、米寿の齢まで楽しく第二の人生を過ごすことができた。それは「じゃお」の仲間のお蔭であり、家内共々感謝しているのである。皆さん本当に有難うございました。

農園は発足当初から参加、一人では辛い仕事も皆では楽しくやれた。ワンゲルの馬籠、妻籠の旅では夜遅くまで盛り上がったものだった。木曽駒ヶ岳は初めてだった。天竜川と思うが川下りも初体験だった。俳句の会では古歌に名高い白河の関や、高石垣で名高い伊賀上野城、近江八景・三井寺も廻った。仲間と行くのは家族との旅とは一味違う楽しみがあった。JAVIC の色々な企業見学も勉強になった。CSS の延長では福祉団体と提携。高齢者、障害者を招いた食事会では皆な汗を流して頑張ったものだった。

後期高齢期に入ってからは先輩達と「後期」をもじったノーブルクラブを立ち上げたが、そこでは人生の晩節を過ごす健康法、認知症予防策、相続の事、様々な話がでたが、銀座アスターでの一刻は楽しかった。グリークラブには恒例の江の島の納涼会・新年会で、素晴らしい美声を楽しませて頂いたものである。

これらの活動の殆どの発端は、二次会での忌憚のない会話から生まれたものだった。7,8 人賛同者があれば新しい活動を拓けるという、大らかな環境が活動分野を増やした原動力だったと思っている。今後もベテランだけでなく新しい仲間の新しい発想が楽しみである。

私は九州で育ち、長じて東京に就職、40 代で何の所縁もない現在地に居を構え、以来、片道一時間を超える通勤を続け、そして退職した。大都会の近郷には、私と同じような環境の方々が無数におられる筈である。その方々の多くは、退職後の私と同じように、職を離れた開放感と、友人、仲間から遠い寂しさを経験されると思うのである。

「じゃお」はボランテイアを標榜するが、私は、地域デビューを試みる方々が、新しい仲間や活動に馴染むのをバックアップし、また、その新人からも協力を頂く、そういう会員相互の協力支援関係こそが、ボランテイアの原点ではないかと思うのである。

最後に、まだまだお世話になりますが、これからも良い仲間と楽しく過ごしたいと、家内共々心より願うとともに受け入れて下さっている皆様に感謝しつつ活動を続けたいと思っております。有難うございました。（完）

じゃお湘南

農園日記―開設当時のじゃお農園その③―

前号で述べたように永田農園の園主永田誠さんは都市住民との交流の中で環境保全型農業を普及された方であるが、今月号ではじゃおクラブが永田誠さんをサポートした農園活動について紹介する。

藤沢市立明治中学校「地域とのふれあい体験」

藤沢市明治中学校では進路や社会についての学びの一環として職業体験学習「地域とのふれあい体験」を行っている。永田農園が職業体験に選ばれたとき、じゃお湘南も永田さんをサポートした。

じゃお農園開設 6 か月後の 1997 年 2 月 27 日（木）9 時 30 分じゃおクラブの守永英輔氏が慶応大学までバスで来た 10 名の生徒を永田農園まで誘導する。到着後永田さんからクイズ形式で藤沢の農業の説明・農作業体験・作業後生徒達と対談の順番で行われたが、じゃおクラブから米木氏以下 6 名が参加して生徒と一緒に行動して永田さんをサポートしたのである。

この活動は評判が良く 2001 年度まで 6 年間続き、1998 年には 3 年生だけでなく全学年で 3 ヶ月かけて行われた。2000 年には湘南台中学校から、2001 年には寒川中学校から依頼が来た。生徒さんからお礼のお手紙を頂いた時はうれしかった。私達にとっても貴重な体験だった。

藤沢市農業体験講座

藤沢市では 2000 年からプロの農業者を講師に迎えて藤沢市農業体験講座を開催していた。じゃおクラブは永田園主をサポートするため、2002 年と 2003 年に参加した。2003 年の状況を説明すると、受講者 120 名が亀井野地区・石川地区・打戻地区の 3 か所に分かれて参加、打戻地区の講師を永田誠さんが引き受け受講者は 32 名（他にじゃお 19 名）だった。

講習は 4 月から 10 月までの 8 回のコースを月 1 回土曜日の 9 時～12 時の計画で実施し、じゃおクラブ全員が鍬を持って参加した。あとでわかったのだが「受講者名簿」に後日入会された増田勝男さんの名前が載っていた。講座（楽しい野菜つくり）は下記の日程で進められた。

4 月：土づくり・枝豆等の播種　5 月：　トウモロコシの播種・サツマイモの定植
6 月：ナス、ネギの植付　7 月：　収穫・整枝・誘引　8 月：　土寄せ・肥培管理・収穫等
9 月：大根、ホウレン草播種　10 月：一般管理・サツマイモ収穫　11 月：畑の片付・収穫祭

最終回の 11 月はじゃおクラブと合同芋煮会を楽しんだのである。

（湘南　島村　忠男　記・写真）

じゃお県央

2023年9月定例そば打ち開催報告

9月の後半を過ぎても猛暑が続いている中、定例そば打ちを開催しました。

今回は、参加者全員が二八そば300gを打って半分を茹でて試食し残り半分は茹でる前の状態で持ち帰り家族で食べることにしました。

4個のこね鉢に300g（そば粉240g、中力粉60g）の粉を振るいにかけて粉の状態を整えたら150 ccの水を4回に分けて加え混ぜ合わせる。水が多いと柔らかくなり麺棒や延ばし板に絡みつき水が少ないと延ばした際にひび割れが発生しますので確認しながらこねていきました。

次に、延し工程では延し板に打ち粉を軽く振って生地がくっ付かない様に麺棒で延ばして行きます。丸く延ばしているのに楕円形や異形になってしまう事もありましたが川村さんの指導のもと薄く延ばすことが出来ました。

延ばした生地を切り易いようにたたみ、まな板の上にのせて打ち粉を振ってこま板と包丁で一定間隔に切り麺状のそばにするのです。

そばの太さは一般的には1.3 mm位だそうだが我々のそばは、うどんサイズからそうめんサイズ迄バラバラでありました。次回はもっと上手くなりたいものです。

今回のそば打ちは、全員が合わせから切り迄やり遂げました。打ったそばの半分は調理室で試食して残り半分はお土産で各自持参した容器に入れてもち帰りましたが家庭での評判はどうでしたでしょうか？

ある家庭では天ぷらを揚げて楽しみに待っていたそうです。

日　時：　9月18日（月）9時30分～12時30分
場　所：　国分コミセン　多目的室
参加者：　8名
　　鈴木（寿）・坂井・川村・小林（嘉）・美濃部・石川・大場・福山

（県央　福山　信二　記・写真）

じゃお多摩・田園

9月　グラファーズ撮影会　大井競馬場

大井競馬場の撮影会は2019年7月9日に実施していますので、今回は2回目になります。

今年8月の東京都心の猛暑日は22日観測され過去最高になったそうです。

このところ年のせいか暑さに弱く、家でゴロゴロしていましたが、今日の天気予報は、気温36℃、熱中症情報は「極めて危険」大丈夫かな～？と思いながら家を出ました。

第4コーナー　馬体を傾け、土煙を上げて

待ち合わせ場所のモノレール「大井競馬場前駅」でメンバーと落合い、歩いて2分の競馬場へ、以前は入場券を買ったような気がしましたが、改札口のようなところのコイン投入口に百円硬貨を入れるようになっていました。

1レースから3レースを撮影することに決めていますので、まずは第1レースの第4コーナーを狙える場所で試し撮り。（馬はいませんが）

暑さが気になっていましたが、スタンドなどの日陰に入ると日差しはあるものの風が爽やかで気分は最高。写真は第1レース（1600m）第4コーナーで撮ったものです。

その後直線追い込みの写真を撮ってからパドックへ。厩務員さんに引かれて歩いている時に後ろ足を蹴り上げる動作をする馬がいました。このような癖のある馬は、尾に赤のリボンを付けていると聞いたことがありますが、付けていました2歳の牝馬です。

折角競馬場に来たのだからと遊びで馬券を買いましたが、かすりもしませんでした。

レースによって距離が1200m、1400m、1600m、1800m、などと変わるので、スターティングゲートを移動しなければなりませんが、牽引トラクターを始めて見ました。これなら簡単に設置できます。

第3レースの見どころを撮って撮影会は終了とし、反省会場へ向かいました。予定していた反省会の店はまだ5時前だというのに満席。近くで見つけた店で、ビールやハイボールの旨いこと、家を出る時に心配していた熱中症はすっかり忘れていました。

今度は馬券メインで来ようと思います。

（ベイサイド　藤井　直敏　記・写真）